

令和5年度 つかわき便り

令和6年2月2日発行

ゆうらくせん 遊楽船 2月号



施設長 福永政和

1月とは思えない暖かさが続いたかと思えば、急激な寒波と…春と冬が行ったり来たりするような天気ですね。1月24日の朝、ここつかわきはすっぽり雪化粧、冷たい朝でしたが玄関には利用者さんが作ったかわいい雪だるま、心がほっこりになりました。利用者の皆さんの体調を気遣いながらの日々ですが、「お疲れ様、寒いから風邪ひかないようにね」「運転気をつけてね」などと温かい言葉に、逆に元気をもらっています。

さて、日々報道される能登地震の被災状況には心が痛みます。日常を少しずつでも取り戻そうと復興に向けての取組が進められています。南国に住む私たちは、たまにしか来ない寒波に悲鳴を上げてしまいますが、被災した方々はこの寒波の中において、復興へ向けて立ち向かっていると思うと頭が下がります。

また、報道では、自身も被災したにもかかわらず炊き出しをして地域の方々を励ます人の姿、東日本大震災の時の支援の恩返しとして、仕事は投げ出して被災地へ出向き救助にあたる人の姿など、心の温かさや優しさを強く感じる方々も多く報じられています。時代はいくら進もうとも、やはり大切なのは人の心ですね。

ここ数年重なってきた重たい空気感を払拭し、心から幸せを感じる年でありたいと願って、新しい年の始まりをいつも以上に期待を込めて迎えた元旦だったはずが…。現在も支援の手が次々と差しのばされ、鹿児島県からも救助や救援物資、復興への支援団体が続々と現地入りしています。こうした人々の温かさで、日常を、笑顔を取り戻して欲しいと願うばかりです。

ところで、8年前に発生した熊本地震の折、障害者施設「三気の里」が被災し、食料などの支援物資を届けたことを思い出します。きっと、今回も高齢者施設や障害者施設で生活していた方々も多くいるはずですが、こうした災害弱者といわれる方々の避難が今なおなかなか進んでいない現状があるようです。私たちも定期的な地震避難訓練は行っているものの、あらためて高齢化が進む利用者の実情を考慮した避難について再考しなければと思います。また、一刻も早い復興を願いながら、僅かではありますが私たちの施設からも義援金として寄付させていただきました。

厳しい自然環境の変動や災害、経済の不安定など加速的な変化が払いようのない不安として渦巻いている感じがしますが、互いに心をかけ合い、愛情のある言葉を交わしながら一日一日を大切にしたいものです。待ち遠しい春、どうぞ御自愛ください。



2年ぶりの面会 姉弟愛に感激でした



1月28日、東 治久さんをお連れして、姉朝子さんと面会してきました。2年ぶりの再会とあって、お二人とも感激の様子。昔は定期的につかわきまで面会に来られていたようですが、最近なかなか来れずに随分と弟治久さんのことを気にかけていたようです。そこで、お姉様の喜寿のお祝いを直接渡したいとの治久さんの希望もあり、鹿児島市の自宅を訪ねることにしました。突然のサプライズにお姉様にも大変喜んでいただきました。

学園自治会長をされていること、日頃の班活動や生活の様子をお伝えすると、「直接、話が聞けてほっとしました。また、こうした学園の配慮がとても有り難いです。」と感謝され、利用者の皆さんへお土産までいただきました。一緒に食事をしながら会話も弾みました。また、その中に素敵な姉弟愛を感じ、私までとても幸せな気分になりました。(副施設長 有蘭)



自治会主催12月・1月誕生会



HAPPY BIRTHDAY

1月28日、誕生会を開催。年末の帰省の方もいらっしゃいましたので、今回は12月と1月を併せての誕生会。12月生まれは稲森昭人さん、横手 洋さん、宮武勝行さんの3名、1月は大田繁樹さん、堀切淳一さん、新村栄子さん、小原安弘さんの4名です。プレゼントを手に、皆さんとても喜んでいらっしゃいました。ますますお元気で！

生活支援員として3年弱勤務した田之畑佳純が新たな職業へ挑戦したいとのことで退社することになり、31日に利用者の皆さんとのお別れ会を開きました。

自治会長の治久さんが花束を贈り、漆間さんが代表としてこれまでの感謝を述べました。心温まる挨拶に併せて素敵な歌のプレゼントもありました。最後まで涙ながらにありがとうの気持ちを伝えたり記念撮影をしたりと利用者の皆さんの優しい気持ちが伝わる有り難いひとときでした。

なお、担当していた児玉廣美さん、東 治久さん、高橋 浩二さんの3名は、久徳支援員が引継ぎます。

